

主な出来事

【内政】

- ボンゴ大統領のガボン国民向け年頭演説
- クーデター未遂事件の発生
- ブグビ新国民議会議長等の選出
- シコゲ・ベカレ新内閣の誕生
- 新内閣による宣誓式の開催
- シコゲ・ベカレ新内閣の一部改造

【外政】

- 一帯一路イニシアティブに関するメディア関係者向け全国フォーラムの開催

【経済】

- オガンダガ経済・計画・開発計画大臣による2019年経済の予測
- 新オウエンド港拡張・近代化に向けたアフリカ開発銀行による支援
- 2017年の対ガボン海外直接投資額が4千億セーファ以上を記録

【内政】

1 2019年政府予算案の国会承認

昨年12月31日、上院は2019年政府予算案を承認した。予算総額は、当初の2兆8,069億CFAフランに対して、3兆330億CFAフランとなった。（3日付UN）

2 ボンゴ大統領のガボン国民向け年頭演説

昨年12月31日、ボンゴ大統領は静養先のモロッコにおいて、恒例のガボン国民向けの年頭演説を行った。ボンゴ大統領は、「2018年は予算のバランスをとるために、強固な施策の実施に特徴づけられた年であった」、「私の体調は良くなっており、早急に（*très vite*）あなた達のもとに戻るべく準備している」などと発言した。（3日付UN）

3 クーデター未遂事件の発生

1月7日（月）5時半頃、防衛・安全部隊の儀仗兵隊のオンド・オビアン・ケリー（Ondo Obiang Kelly）中尉率いる約10名で構成される軍人の小団体が、防衛・安全部隊の青年愛国主義運動を名乗り、国営ラジオ局の事務所に押し入った。同団体は、その場にいたラジオ局職員を人質にとり、共和国体制に対する反乱及び国家再建に関する全国評議会の設置を呼びかけるメッセージを放送させた。その後、ガボン政府の介入部隊により、同団体のメンバーが無力化・逮捕された。（8日付UN等）

4 ブグビ新国民議会議長等の選出

11日に開催された国民議会選挙後初となる議会においてフォスタン・ブクビ（Mr. Faustin Boukoubi）議員（ガボン民主党（PDG、与党）前幹事長）が国民議会議長

に選出された。また、第二から第六副議長も選出され、第4副議長以外はPDGから選出された。(14日UN等)

5 シンコゲ・ベカレ新内閣の誕生

11日に首相に任命されたシンコゲ・ベカレ氏 (Mr. Julien Nkoghe Bekale) は、12日に新内閣を発表した。新内閣は、國務大臣11名、大臣18名、副大臣8名で構成され、新聞僚は10名。イソゼ前首相は共和国調停者に任命され、エヨゴ・エザング水・エネルギー大臣等は更迭された。(14日付UN)

6 新内閣による宣誓式の開催

15日、ボンゴ大統領臨席のもと新内閣による宣誓式が開催された。同宣誓式後、ボンゴ大統領は、シンコゲ・ベカレ新首相等との会談を行った。その後、ボンゴ大統領は静養を継続するためにモロッコのラバトに帰還した。(16日付UN)

7 県議会議長選及び市長選の日程発表

22日、内務・国土行政・地方自治体・地方分権化省 (市民権・移民担当) は、県議会議長選及び市長選が2月3日に、区長選が2月10日に実施されると発表した。(25日付UN)

8 アフリカビジネス調整機構 (OHADA) 閣僚会議の開催

30日、シンコゲ・ベカレ首相の主幸による第47回OHADA閣僚会議が開催された。同会議では、とりわけ2019年予算の採択、新本部の建設、OHADAの能力強化、財政権益の強化が取り上げられた。(31日付UN)

9 シンコゲ・ベカレ新内閣の一部改造

30日、ガボン大統領府は今日12日に組閣された内閣の一部を改造する大統領令を発表した。同内閣改造により、オスカ・ラポンドリーブルビル市長が国防・国土治安大臣として新入閣を果たした一方、マッサール・カビンダ・マカガ国防・国土治安大臣、オナンガ・ヨベゲ農業・畜産・食料大臣 (GRAINE政策担当)、マニヤニヤ鉱物資源活用・産業化大臣が更迭された。

【外政】

1 一帯一路イニシアティブに関するメディア関係者向け全国フォーラムの開催

28日、一帯一路イニシアティブに関するメディア関係者向け全国フォーラムが「ガボンのメディア及びジャーナリスト：一帯一路イニシアティブの理解と活用」をテーマにオウエンドにおいて開催された。(29日付UN)

【経済】

1 オガンダガ経済・計画・開発計画大臣による2019年経済の予測

オガンダガ経済・計画・開発計画大臣 (公共・民間投資促進担当) は、ユニオン紙とのインタビューにおいて、「2019年の経済活動は石油産業の回復及び非石油セクターの好調な業績により、3%以上の経済成長率を想定している。とりわけ石油、鉱業及び農業を

含む第一次産業の好調な業績を見込んでおり、木材や農産物加工業に牽引された第二次産業の生産量が2.8%増、輸送及び通信関連の活動に牽引された第三次産業の生産量も3.5%増が見込まれている」と発言した。(4日付UN)

2 新オウエンド港拡張・近代化に向けたアフリカ開発銀行による支援

アフリカ開発銀行は、同港の埠頭の380メートル拡張及びロジスティクサービスの向上等のために4千万ユーロ(約260億フラン)の融資を承認した。(10日付UN)

3 好調な木材産業(2018年)

2018年9月末時点で丸太の生産量は昨年同月比の6%増を記録するとともに、地方における販売額も前年同月比の118.6%を記録するなど、木材産業は好調な業績を示した。(14日付GR)

4 リーブルビル・フランスビル間の光ファイバー事業のSpin社への委託

昨年12月20日、デジタル回線・インフラ庁(ANINF)によるインフラ部門の全管理を委譲されたデジタル・インフラ財産会社(Spin)が、今後、リーブルビル・フランスビル間の光ファイバー事業の開発、商業化及びメンテナンスに関する管理を行うこととなった。(14日付UN)

5 ガボン政府とFAO、2017年から2022年の農業分野に関する協力協定に署名

ガボン政府とFAOは、各国プログラム・プロジェクト(PPP)の枠組において、2017年から2022年の農業分野に関する協力協定に署名した。(16日付UN)

6 経済・計画・開発計画省、2018年債務残高は5兆3千セーファの上限を越えることはないと発表

経済・計画・開発計画省債務総局は、同省のコミュニケを通じて、2018年の債務残高が5兆3千セーファの上限を越えることはないと発表した。他方、複数の融資の非生産性、新規融資の計画、財政関連データの不透明性等の問題もあり、同債務残高は実際には同上限を超えると見られる。(16日付GMT)

7 2017年の対ガボン海外直接投資額が4千億セーファ以上を記録

2017年、対ガボン海外直接投資額は7億ドル(約4千億セーファ)以上を記録した。ガボン政府による投資誘致策により、エネルギー、農産物加工、木材、輸送、鉱物、住宅及びインフラといった経済再建計画(PRE)における全ての優先分野への投資が行われた。(21日付UN)

8 ガボン南部海域における石油埋蔵量の確認のための地震調査の実質的開始

総合地球物理社(CGG)は、石油・ガス・炭化水素省とのパートナー関係の延長の一環で、深海における石油埋蔵量の可能性を調査するため、ガボン南部海域における2Dマルチクライアント地震調査を実質的に開始すると発表した。(22日付UN)

9 ンコク経済特区発のコンテナ数、月平均521台

ンコク経済特区の役員は、同経済特区発のコンテナ数は月平均521台輸送されており、右台数は国内の輸出台数の3分の1に相当すると発言した。また、同経済特区は、昨年9月30日末時点で3,600人(65%がガボン人、35%人が外国人)を雇用している。

(23日付UN)

10 NGO「トランスペアレンシー・インターナショナル」による汚職度指数調査において、ガボンは180位中124位

29日、NGO「トランスペアレンシー・インターナショナル」は、汚職度指数調査に関する年間報告書を発表し、ガボンは180位中、124位であった。ガボンは100ポイント中、31ポイントを獲得するも、ルワンダ(48位)、セネガル(67位)、マリ(120位)よりも順位が下となった。(30日付GR)

出典:PR(大統領府公式HP),UN(ユニオン紙),GM(ガボン・マタン紙),GN(ガボン・ニュース電子版ニュース),AFP,GA(Gabonactu.com),GR(ガボン・レビュー電子版ニュース),LG(ル・ガボン電子版ニュース),GE(ガボン・エコ電子版ニュース),AFP(フランス通信社),GL(ガボンリール電子版ニュース),AFI(アフリカ・エネルギー・インテリジェンス),LP(LOUP 紙),EN(エコ・ノール紙),GMT(Gabonmediatime)